

地域環境学ネットワーク 設立に向けたブレインストーミング

佐藤 哲

JST社会技術研究開発
センター「地域主導型
科学者コミュニティの
創生」プロジェクトリー
ダー

長野大学

環境ツーリズム学部

2010年3月1日



1

アジェンダ(3月1日)

3月1日(月曜) ブレインストーミング (JST社会技術研究開発センター会議室)

- 10:00~10:30 地域環境学ネットワークと協働のガイドラインのデザインについて(前日のグループリーダー会議の議論から)・・・佐藤哲
活動報告と地域環境学ネットワークについてのコメント
- 10:30~11:30 中村浩二(金沢大学・能登半島里山里海自然学校)
- 11:30~12:30 内田しのぶ(釧路湿原自然再生普及行動計画WG事務局)
- 13:30~14:30 一ノ瀬友博(慶應義塾大学・撤退の農村計画)
- 14:30~15:30 池上真紀(東北大学・天栄村EIMYプロジェクト)
- 15:30~16:30 須藤明子(株式会社イーグレット・オフィス・カワウ対策)
- 16:30~17:30 宮内泰介(北海道大学・環境社会学)
- 17:30~18:30 討論

発表者以外の参加者: 鎌田磨人、家中茂、鹿熊信一郎、菊地直樹、清水万由子、オブザーバー: 堀内美緒、水口亜紀(金沢大学地域連携推進センター)

アジェンダ(2月28日)

2月28日(日曜) 地域環境JSTグループリーダー会議

会場 私学共済・東京ガーデンパレス

参加予定者: 佐藤哲、鎌田磨人、家中茂、松田裕之、鹿熊信一郎、内田しのぶ、清水万由子、若山恵美(JST/RISTEX)

13:00~18:00

- ①地域環境学ネットワーク設立の準備状況の共有
- ②ネットワークのデザイン(規約案をもとに)
- ③協働のガイドラインのデザイン(清水)
- ④ネットワークのウェブサイトを活用した情報交換と議論の仕組みについて
- ⑤設立シンポジウムの内容とスケジュール
- ⑥「科学技術と社会の相互作用」国際シンポジウム“Science in Society—Japanese Perspective—”への参加について

自己紹介に代えて・・・これまでの研究、活動と、思索の系譜

研究者として(1985年から)

タンガニイカ湖、マラウイ湖の魚類生態研究
シクリッド類の生態と急速な種分化・多様化、共存の機構
..... 住民主体の資源管理の基盤となる科学的知識
のありかたに関心を広げる

環境団体のリーダーとして(2001-2004)

前WWFジャパン自然保護室長(サンゴ礁保護研究センター長兼任)
住民主体の持続的資源利用と地域振興の相乗効果をめざす活動
科学的知識の内部化を基盤とする環境問題の解決
..... 人類と自然環境の共生と人類社会のよりよい未来
に科学者として貢献することをめざす

2006年4月から

長野大学産業社会学部、2007年4月に環境ツーリズム学部に改組
地域の環境保全と地域社会の発展の両立をめざす研究と活動

地域主導型科学者コミュニティの創生

研究代表者：佐藤 哲（長野大学環境ツーリズム学部）

問題：科学者が生産する環境問題に関する知識が、地域社会の問題解決に必ずしも有効に活用されていない
・・・ステークホルダーの科学リテラシーの不足？

- 普遍性を強調する科学者の研究スタイルが地域社会に固有の状況における問題解決に適していない
- 科学的知識生産が在来の意思決定システムや価値観、知識体系と乖離
- 地域社会の固有性を踏まえた問題解決型の研究成果が科学者コミュニティの中で評価されない

（ここでいう科学者は、自然科学者、人文社会科学者の両方であり、職業的科学者だけでなく、科学的手法による知識生産を行う多様な人々を含む）

レジデント型研究機関と地域住民の協働

訪問型の研究

VS

レジデント型研究機関（定住する研究者）

★訪問型の限界

困ったときに現れる正義の味方
外部者としてだけのコミットメント
限られた研究期間（いずれは去る人）

★レジデント型研究機関が提供するものは・・・

継続的な研究を担う定住者としての研究者
ステークホルダーの一員としての研究者
生活者としての研究者
地域の未来に関する当事者としての研究者

地域社会の中のレジデント型研究機関

主役は地域のステークホルダー

それを支える・・・レジデント型研究機関（定住する研究者）

地域社会の中に定住して研究を行う研究者を擁する大学、研究所などで、地域社会の課題の解決に役立つ領域融合的研究を、研究機関の使命として明瞭に意識しているもの

★実例が増えている

滋賀県立琵琶湖博物館

WWFサンゴ礁保護研究センター

兵庫県立コウノトリの郷公園

長野大学もそのひとつ

10

地域社会と協働する新しい科学者集団 ・・・レジデント型研究機関・・・

石垣島白保

WWFジャパン サンゴ礁保護研究センター



13

WWFジャパン サンゴ礁保護研究センターの研究活動
環境問題の解決のための領域融合的な研究と地域活動



人々が活用できる「役に立つ知識」を継続的に生産
二名の研究者(サンゴ礁生態学・地域振興)
リーダーシップを担う「白保魚湧く海保全協議会」の中心として活動

地域が主役の環境保全と地域再生
それをサポートする科学者・専門家

順応的な環境保全・持続可能な資源管理・地域文化の保全と再生を基盤とした地域活性化に向けたダイナミックな活動

定住者、生活者としての研究者を提供するレジデント型研究機関

地域のステークホルダー・多様な訪問型研究者・知識生産主体が集まる「地域環境学ネットワーク」

人と自然のつながりの再構築・・・自然環境と調和した持続可能な地域づくり

プロジェクトの目標
地域主導型科学者コミュニティの創生

- ・問題解決型の知識生産に向けた科学者コミュニティの**変容の実態を把握し、レジデント型研究機関が機能する要件**を解明
- ・ステークホルダーとさまざまな研究主体の**協働と相互作用の実態**を解明
- ・各地のレジデント型研究機関・多様な研究主体・ステークホルダーが参加する「**地域環境学ネットワーク**」を形成
- ・科学者とステークホルダーの「**協働のガイドライン**」を策定し、問題解決型の研究の**ステークホルダーが参加する「評価システム**」を成熟させる。ガイドラインと評価システムとが**科学者コミュニティに受容され、普及する。**

ステークホルダーと協働して環境問題の解決に役立つ
実用的な知識を生産する科学者コミュニティを確立。

「地域環境学ネットワーク」

(2010年3月設立予定)

JST社会技術開発センター (RISTEX) 「地域主導型科学者コミュニティの創生」プロジェクト

多様な地域の環境問題に取り組む地域社会のステークホルダーと科学者が
お互いに学びあい育てあう、全国的なネットワーク

- ・地域の多様な環境問題に取り組むステークホルダーと科学者がお互いに学びあい育てあう場を提供
- ・問題解決の担い手である地域社会のステークホルダーのみなさんの良きパートナーとなる科学者を育て、持続可能な地域社会づくりをすすめる
- ・地域社会と協働しながら研究を行い、地域環境問題の解決に資する研究成果を生み出す科学者を応援

地域環境学ネットワーク・ウェブサイトを
http://www.c1.nagano.ac.jp/sato/network/
localscience/index.html

18

地域環境学ネットワークの特徴

科学者とステークホルダーのつき合い方「協働のガイドライン」
地域の視点から研究を評価する「参加型研究評価システム」

- 情報交流をつうじて科学者と地域のステークホルダーの協働のあり方を探索
- 「協働のガイドライン」を共有し、各地での協働のために役立つよりよい指針へと改善
- 「参加型研究評価」によって地域の問題解決に役立つ研究を、地域の視点と科学の視点の両面から評価

地域環境学ネットワークは、地域社会の問題解決に貢献する科学者とステークホルダーのコミュニティを目指します。

「協働のガイドライン」
科学者とステークホルダーが共有すべきルール

- ・ 地域環境の変化に応じた意思決定に必要な科学的知見を蓄積している
- ・ 問題解決に必要な知識とは何か？を知るためのコミュニケーションがある

など

「参加型研究評価システム」
地域社会の問題解決に貢献する研究の意義を、ステークホルダーの視点から評価

- ・ 地域の自然と社会の変化を踏まえ、地域の将来を決める意思決定に役立つ研究内容か
- ・ 地域社会のステークホルダーと科学者が多様な活動を認め合いながら、問題解決に向けて前進しているか

など

多様な事例についての情報共有

学びあい、育てあうネットワーク

地域社会のステークホルダー

例) 豊岡市コウノトリ共生課
白保魚漁く海保全協議会
かみかつ里山倶楽部

個別課題のネットワーク

例) 草原再生ネットワーク
森を持つ大学ネットワーク

地域ごとの課題解決ネットワーク

例) 徳島県上勝町千年の森づくり
八重山漁協を中心とした海洋保護区
慶良間諸島ダイビング業者による
海域保全

「レジデント型研究機関」とは
主役は地域社会であることを意識しながら、地域社会が課題解決のために活用できる科学的知見を求めて幅広い研究を行う。地域社会の一員となり、地域に根付いた知識も活用して問題解決型研究に取り組んでいます。

地域環境学ネットワークの活動スケジュール

- 2009年度**

地域環境学ネットワーク設立に賛同する組織・個人を募集します。ネットワーク設立に向けて体制を整え、「協働のガイドライン」を練り上げます。専用ウェブサイト立ち上げて、コミュニケーションを活性化させます。
- 2010年度**

設立シンポジウムを開催し、「協働のガイドライン」を提示します。若手研究者などの短期滞在型研究を試行し、レジデント型研究者の養成します。参加型研究評価や短期滞在型研究の試行結果を踏まえ、「協働のガイドライン」と「参加型研究評価システム」の改定を進めます。
- 2011年度**

「参加型研究評価システム」の評価基準案を策定し、科学者とステークホルダーとの協働事例について、メンバーからの評価意見を募って相互評価の試行を行います。
- 2012年度**

ネットワークの持的な活動に向けて、運営体制の整備や活動内容の改善を進めます。

各フィールドにおける研究開発

●「レジデント型研究機関を中心とした科学者の変容の実態把握」

- ・徳島大学(鎌田磨人)
- ・兵庫県立コウノトリの郷公園(池田啓)
- ・滋賀県立琵琶湖博物館(牧野厚史)
- ・WWFサンゴ礁保護研究センター(上村真仁・佐藤哲)
- ・芸北高原自然の館(白川勝信)
- ・長野大学恵みの森再生プロジェクト(高橋一秋・佐藤哲)

●「ステークホルダーと科学者の相互作用と協働の実態把握」

- ・沖縄県恩納村・座間味村(家中茂・三輪信哉)
- ・千里リサイクルプラザなど(三輪・家中)
- ・鹿児島県奄美地方(大西秀之・松田裕之)
- ・沖縄県八重山漁協(鹿熊信一郎)

25

事例収集と協働体制の構築(2)

●既存の個別課題解決を目指すネットワーク

- ・全国草原再生ネットワーク
- ・森を持つ大学ネットワーク
- ・NPO法人棚田ネットワーク・棚田学会
- ・撤退の農村計画
- ・みなみから届ける環づくり会議・徳島県

●重要なステークホルダーとしての企業・一次産業従事者

- ・地域のオピニオンリーダーとしての地域工務店による知識技術の生産(四季工房・福島県)
- ・恩納村漁協(沖縄県)
- ・スポンサーとしての企業(三井物産環境基金・能登里山里海自然学校)

25

事例収集と協働体制の構築(1)

●各地の潜在的なレジデント型研究機関

- ・AMSL阿嘉島臨界研究所
- ・十日町市立里山科学館 越後松之山森の学校キョロロ
- ・金沢大学能登半島里山里海自然学校
- ・釧路湿原ワンダグリンドプロジェクト
- ・矢作川研究所
- ・黒潮実感センター

●訪問型研究者と地域社会の協働

- ・福島県天栄村EIMYプロジェクト(東北大学 新妻弘明)
- ・里海創生社会システムの構築(九州大学 柳哲雄)
- ・佐賀県松浦川アザメの瀬(九州大学 島谷幸宏)

●地域社会の多様な知識生産主体

- ・エゾジカ協会(エゾジカの有効利用を通じた生態系管理)
- ・虹別コロカムイの会(シマフタロウをアイコンとした流域再生)

地域環境学ネットワークの拡大と深化

地域環境学ネットワーク参加のインセンティブ

●ステークホルダーにとって

- ・科学者・専門家を選択する・使いこなす・飼いなす
- ・多様な専門性・成功例・政策オプションへのアクセス

●レジデント型研究機関・研究者にとって

- ・孤軍奮闘から脱却、視野・専門性の拡大、普遍化の糸口
- ・地域の固有性に対応した問題解決型研究への評価

●訪問型研究者にとって

- ・多様な地域・人材・事例・課題へのアクセス
- ・有効性の検証の機会、普遍知の固有性に合わせた翻訳

●市民調査の主体・生業の現場の知識生産主体・企業にとって

- ・多様な専門性・手法へのアクセスと科学的基盤の強化
- ・政策・意思決定への効果的な関与とビジネスモデルの構築

26

規約案とネットワークのウェブサイトを活用した 情報交換と議論の仕組みについて

地域環境学ネットワークの規約案(2009年11月22日版)

規約案

地域環境学ネットワークのウェブサイト構築

http://www2.nagano.ac.jp/sato/network_localscience/index.html

交流と議論のためのウェブ上のプラットフォーム構築

<http://ohts.biz/forum/modules/d3forum/>

27

協働のガイドライン (2) 協働の現場における留意事項

- 意思決定・評価のプロセスにおける相互作用と相互変容の促進
 - ・科学者・専門家の抵抗と普遍的価値の提供…ステークホルダーによる受容と変容
 - ・ステークホルダーによる受容・評価と科学者の変容…学びあい育てあう協働
- 多様な主体の相互作用と緊張関係の維持
 - ・「誰も満足していない。だから動いている」
 - ・ダイナミックな変化を止めない…外部との相互作用
- 「現場の知識」の実像: 在来の知識も科学知も渾然一体として切り分けることができない…多様な「知」のありかたの取り込みと飼いならし
- 生活の必要から生まれる専門性(恩納村漁協): 生業の現場における知識生産・企業活動の現場における知識生産

協働のガイドライン (1) 「姿勢」「心構え」に関すること

- 科学・専門性の特権的権威の相対化
 - ・意思決定・評価の主体は、あくまで生活者である地域のステークホルダー(知識生産を通じて後方支援する科学者・専門家)
 - ・水産資源管理…漁業者の意思決定でいいのか?
 - ・科学者・専門家はどこまで禁欲的であるべきか?
- 合意形成とは何か?: 「意見の一致」「みんなの納得」は現実にはあり得ない。予定調和的な協働を想定することは無意味(プロセスへの参加と思考プロセスの共有…市民調査・参加型調査)
- 差異を維持した協働: 差異があっても当然。対立があっても当然。不満があっても当然…成功例は、それでも前に動き続けている
…共約可能性

設立シンポジウムの内容とスケジュール

地域環境学ネットワーク設立シンポジウム(案)

2010年9月18日(土曜)午後~19日(日曜)全日?
@京都(同志社女子大学)または大阪(大阪学院大学)

タイトル「地域の環境保全と持続的発展に役立つ科学を求めて」

第1日
基調講演・シンポジウム(1)・交流会

第2日
ポスターセッション・シンポジウム(2)・(テーマセッション?)

30

設立シンポジウムの内容とスケジュール

第1日

○基調講演:佐藤哲(協働のガイドラインの考え方を含めて)

○シンポジウム(1)「地域に役立つ知識とは? - さまざまな研究のありかた」(コーディネーター:家中)

新妻「地域の固有性に即した問題解決のための科学」

松田「訪問型研究者と地域 - 受け入れられ活用される私になるために」
比嘉「生業の中での研究 - 漁業者の生活のための知識技術と海洋環境の保全」

エゾジカ協会・井田「社会の仕組みをつくる - エゾジカの有効利用と森林再生」

四季工房「企業活動を通じた技術開発と地域社会 - 地域工務店の森づくり・地域づくり」

パネルディスカッション

31

設立シンポジウムの内容とスケジュール

第2日

○総会

○ポスターセッション(地域からの活動報告)

○シンポジウム(2)「地域で活躍するネットワーク - 意見や価値観の違いを超えた協働」(コーディネーター:清水)

鎌田「上勝里山倶楽部にかかわる懲りない人々」

森の健康診断・丹羽「調べることで人々をつなぐ - 森の健康診断」

上村「地域の活動を支えるカタリスト - 裏方としてのレジデント型研究者」

神田「住み着くということ - 里海に対する誇りと愛着」

内田「環境アイコンを核としたネットワーク - 釧路湿原の地域再生」

鹿熊「行政マン研究者と地域 - 使える知識技術の知恵袋」

パネルディスカッション

32